

■「効果の見える治水事業」

香川県 下条川（小豆島町神浦）の砂防事業

香川県小豆総合事務所次長

たけうち まきみ
竹内 正巳



【下条川通常砂防事業】

本溪流は、小豆郡小豆島町神浦に位置し、流域面積 0.21 ㎢、平均渓床勾配 1/5 の土石流危険溪流で、渓床には多量の不安定土砂が堆積しており、今後の大雨により土石流が発生する危険性が高まっています。

下流には、約 43 戸の人家や耕地 1.3ha に加え、災害時の避難所となる神浦コミュニティセンターや県道三都港平木線、町道等の公共施設も位置していることから、それらを土石流による被害から守る必要があるため、平成 21 年度より下条川通常砂防事業に着手し、地元関係者の御協力のもと、平成 26 年度に完成しました。

また、当事務所においては、住民の生命・財産を守るため、小豆島町と連携し、引き続き砂防施設整備を推進するとともに、土砂災害警戒区域等の周知を行うなど、住民の早めの避難につなげるソフト対策も強化し、ハード・ソフト一体となった土砂災害対策に取り組んでいます。

【事業概要】

- 事業期間 平成 21 年度～平成 26 年度
- 全体事業費 320 百万円
- 整備施設
 - ・えん堤工：1 基（堤高 8.0m、堤長 126.0m）
 - ・溪流保全工：L=120m
- 効果量
 - ・貯砂量：7,090m³ ・捕捉量：2,570m³



完成したえん堤



下流の保全対象を望む

香川県小豆郡小豆島町

「土砂災害被害軽減に向けた取り組み」

小豆島町長 したた ゆきお
塩田 幸雄



小豆島町は、瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の中央から東に位置する、海と山の美しい自然に恵まれた町です。平成 18 年 3 月 21 日に内海町と池田町が合併して誕生しました。日本におけるオリーブ発祥の地として、また、壺井栄の小説を基にした映画「二十四の瞳」の舞台として全国的に知られています。オリーブ発祥の地にはオリーブ公園が、「二十四の瞳」の地には再映画化のセットを保存した二十四の瞳映画村があり、多くの観光客で賑わっています。その他にも日本三大渓谷美に数えられる寒霞渓、18 世紀頃に始まり、現在も伝承されてきている農村歌舞伎舞台など数多くの観光スポットを有しています。小豆島町の産業は、醤油、佃煮、素麺などの食品産業が中心です。大坂城築城からの歴史を有する石材業、豊かな観光資源を生かした観光関連産業やオリーブ製品の製造業も盛んです。

さて、小豆島は島しょ部特有の急峻な地形で雨にもろく崩れやすい地質を有していることから、これまで何度も大きな台風被害を経験しています。中でも、昭和 49 年・昭和 51 年の台風では各所で土砂災害が発生し、それぞれ死者 29 人、35 人の甚大な被害を受けました。自然災害は、避けることはできないかもしれませんが、災害が起きたとき、被害を最小限度にすることは可能です。そのためのハード施設の代表的なものが今回、県が整備した砂防施設です。前述の土砂災害以降、小豆島では数多くの砂防施設が整備されましたが、まだ未整備の箇所がありますので今後とも県と協力し、整備を推進していきたいと考えています。

しかし、砂防施設の建設には一定の費用と期間を要することから小豆島町では、このハード事業に頼るだけではなく、ソフト面の土砂災害警戒区域等の周知や情報伝達体制の整備、避難方法や避難場所の周知などの警戒避難体制の整備を行い、災害の防止や被害の軽減を図っております。



昭和 51 年 9 月台風 17 号による爪跡(小豆島町西村地区)